

令和2年度第2回学校運営協議会（全日制部会）議事録

| | |
|-----|--------------|
| 校名 | 大阪府立佐野工科高等学校 |
| 校長名 | 山本 好男 |

| | |
|---------|--|
| 開催日時 | 令和2年11月10日（火） |
| 開催場所 | 書面による開催 |
| 出席者(委員) | 山田会長、日根野谷委員、上野委員、神於委員、町谷委員、下荒神委員 |
| 出席者(学校) | 山本校長、山崎教頭、岡事務部長、飯田、西口、瀧本、小口、岩崎、川村、山口、水津、奥野、坂本、田中亮、森田、森栗、山崎公、金丸 |
| 傍聴者 | なし |
| 協議資料 | 令和2年度学校概況、経営計画及び学校評価、分掌目標および地域連携（コンソーシアム）進捗状況 |

議題（次第順）

1 【令和2年度学校経営計画進捗状況についての説明】（校長より）

2 【質疑応答】

- ① 令和2年度学校概況について
- ② 令和2年度学校経営計画及び学校評価について
- ③ 令和2年分掌目標進捗状況について
- ④ その他について

3 【まとめ】（校長より）

協議内容・承認事項等（意見の概要）

1 令和2年度学校経営計画進捗状況についての説明（校長）

- ・本校の教育活動にご支援、ご協力を賜りありがとうございます。
- ・令和2年度、第2回学校運営協議会の開催につきましては、新型コロナウイルスの影響もあり、書面での開催とさせていただきます。どうぞよろしく願いいたします
- ・本年度の半年間の遅刻者の総数は、昨年度同期比 65%となっています。若干の生徒数の減と授業日数の減はありますが、その要素を差し引いても大幅な減少となっています。特に2年生での減少幅が大きくなっています。生活指導部の今年からの指導の成果が表れているものと思われます。
- ・本年度の半年間の懲戒件数は、4件、4人となっています。問題行動の件数もここ数年の傾向からすると、大幅な減少となっています。事象に関しても、軽微なものであり、悪質なものは発生していません。生活指導部や学年の指導のもと、落ち着いた学校生活が成立していると考えられます。
- ・9月1日現在の在籍者数は、表のようになっています。4月からの5か月間で3名の転退学者が出ました。ここ数年、転退学者を減少させることができている。今年はこの傾向がさらに進み、転退学者を大幅に減少させることができている。担任団や生活指導部、また保健人権部の丁寧で細やかな指導、さらに特別支援教育の取り組みなどの成果であると思われます。

- ・本年度のクラブ加入率は、51.7%と大幅に向上しています。これは、特に新1年の学年団が積極的に生徒の入部を勧奨した成果が表れているものと考えられます。引き続き、入部した生徒の定着に向け、取り組みをしていきたいと思ひます。
- ・本年度の求人件数、延べ求人人数ともに、大きな減少が見られます。原因として考えられるのは、今年に入って起こった、新型コロナウイルスの感染拡大による、企業の業績の悪化があると推察されます。このような状況ではありますが、生徒の就職試験における合格率は、85.3%（11月5日現在）になっており、例年と遜色のない結果となっています。
- ・今年の8月に実施しました、第1回授業アンケートの結果は、指数として3.13となっています。第1回の結果としては、若干低下する傾向が見られます。12月に実施される第2回目の授業アンケートの結果を見て総合的に評価をしたいと思ひます。
- ・本年度のものづくりに関する、大会・コンテストに関しては、新型コロナウイルスの感染拡大によりほぼすべての開催が中止となっています。このあと、年度末に向けていくつかの開催が予定をされています。また、発表の場を失った生徒に対して、校内での大会など、何らかの機会の提供もできればしたいと思ひています。

2 質疑応答

① 令和2年度学校概況について

- Q. 遅刻者数、懲戒件数、転退学者数が減少し、クラブ加入率も増加しており、特に生徒指導面で充実した学校運営ができていると思ひます。
- A. 遅刻者数の減少は遅刻指導方法の変更による影響が大きい。変更点は早朝登校による生活習慣の改善、教職員全体への周知徹底・連携の強化です。
懲戒件数減少要因は休み放課後の見回り、学年と生活指導部の連携の強化です。
クラブ加入率増加は1学年と生徒会が連携し、部活動加入のための尽力の成果です。
- Q. 求人の減少で、企業は即戦力で人材教育の行き届いた学生を希望されており、本校の合格率に繋がっていると感じました。
コロナでモノづくりの発表の場が少なくなりましたので、是非校内でも発表の場を作って頂き生徒の活躍の場を提供してほしいと思ひます。
- A. ものづくりの発表の場は減ってはいるものの、実施されているものに関しては、可能な限り参加しています。
オンラインでの発表を求められるコンテストもあります。
1月には、例年通り課題研究発表会を予定している。せつかくの発表の場であるので、感染対策を考えながら、実施する方向で考えています。
- Q. 新型コロナの影響で就職難と言われる中、例年と遜色ない結果は教員の皆様のご協力とご指導、また生徒の努力だと感じています。ご尽力いただきありがとうございます。
職種の割合にコロナ禍の影響があったのでしょうか？ 雇用条件に変化は無かったですでしょうか。
- A. 職種の割合は昨年度と比べますと、どの業種も数%の増減がある程度でした。その中で飲食関連、イベント企画や警備職等の業種が他と比べ大きく減少しました。
昨年と同様に求人を頂いた雇用条件はコロナによる変化は見られなかったです。

② 令和2年度学校経営計画及び学校評価について

- Q. 学校運営協議会が対面実施できないことは大変残念ですが、新型コロナの第3次感染が拡大している現状においては致し方ないものと存じます。その上で書面開催でありましてご企画ご準備いただきました

先生方には感謝申し上げます。また、校長先生はじめ各分掌長の先生方におかれましては詳細にデータをおまとめ頂き重ねてお礼申し上げます。

資料を拝見いたしましたところ遅刻者数が激減しているなど日頃の教育の成果が数字となって表れているものと存じます。特に2年生は本来、中だるみする学年ですが目を見張る成果がだせていると存じます。これらは懲戒件数や離学者数の改善にも如実に表れており、御校の教育の質が向上しているといえます。あわせてクラブ加入者割合も増加しており担任の先生がたのご尽力も見て取れるものであると存じます。求人状況につきましてはコロナ禍により求人者数が全国的に低迷するなか、500件を超える求人があるということは専門高校として社会から評価されていることの証だと考えられます。すでに85.3%の内定率ということですからこちらも素晴らしい数字ですね。3年生担任団、進路指導部の先生方には引き続きご尽力いただけますようお願い申し上げます。

授業アンケートにつきましては些か低下傾向にありますが、これもコロナ禍で思うように授業時間が確保できないことに起因するものもあろうかと存じます。資料にもありましたように第2回の結果を見て判断したいと存じます。

ものづくりに関する大会・コンテストが中止になっていることは大変残念なことです。まだこの後機会があるものが残っているということですから是非積極的にご指導いただけますようお願い申し上げます。特に先行きの見えない現在の社会においては主体的で創造的な人材が求められる傾向にあります。モノづくりは生徒の主体性・創造性を引き出す効果的な教育方法でありますから何卒よろしくお願い申し上げます。

- A. 一部の会社の方からの話で「今年、高校に求人を出さなければ、会社の世代に空白が生じる」という問題があるため、佐野工に求人を持って来られたということを知りました。数ある高校の中で佐野工科高校を選んで頂いたのは喜ばしいことです。今後もより多くの企業から評価されるように頑張りたいと思います。

コンテスト等に関しては、実施されているものに関しては、可能な限り参加しています。

その他ご意見

- ・校長先生の学校経営がこの4年間でたいへん成果を上げていると思います。
- ・目ざす学校像の中に、「ものづくり教育の発信源」となる、地域に根差した「地域の宝」と信頼される学校づくりをスローガン掲げていることに、地元産業界として心強く、期待を致しております。

③ 分掌（教務・生活指導・進路指導・保健人権・総務）からの報告、及びコンソーシアムについて

- Q. 教務部の取り組みとして、系・専科決定を3学期に引き伸ばしたことは画期的であると思われます。これまでできるだけ早く系・専科分けをして専門学科の教科教育をという声はありましたが、系・専科分けが早すぎると生徒が誤った選択をする可能性が高くなります。さらに系選択がなされた後では他系の学習には身が入らないということも考えられます。今年度末の生徒の状況により改革の評価がなされるものと期待しております。

生徒指導部の取り組みにつきましては前述のとおり結果をもって評価できます。何もせず改善されることはありませんので、引き続きご尽力の程お願いいたします。

進路指導部におかれましては応募前職場見学が功を奏しているのではないかと考えられます。さらに就職後の離職率にも注意しながら企業と情報交換等を行っていけば不況下においても成果は出せるのではないかと考えられます。

保健人権部におかれましては教育相談の充実を是非お願いしたいと考えております。コロナ禍において自死にいたる人の数は前年比40%増加であり、特に女性の増加率は前年比80%増加となっています。生徒

が相談しやすい雰囲気を醸造し教育相談担当者だけでなく全教職員がカウンセリングマインドを高められるようにご尽力いただけますようお願い申し上げます。

総務部におかれましてはコロナ禍において諸活動の難しい対応を迫られるなか厳しい運営をされていることと存じます。このような現状においても学校 PR は必要不可欠であり引き続きご尽力いただけますよう宜しくお願い申し上げます。

A. ありがとうございます。

コロナの影響を受け、1 学期の授業時間が少なくなり、評価Ⅰ（1 学期の成績）だけでは、系専科選択することが難しくなったので、思い切って大きく変更することができました。

学年としても、勉強の面で評価Ⅱ（2 学期成績）までは生徒の意識を引っ張ることができること。系・専科分け後の授業は、生徒にとって本気に取り組めないなどの課題も挙がっていたので、生徒の意識付けにおいてもよかったと思います。

授業日数の割合もあり、系専科決定基準として今年度は、【評価Ⅰ】3 割、【評価Ⅱ】5 割、【工基】2 割で行いました。

来年度は、【評価Ⅰ】4 割、【評価Ⅱ】4 割、【工基】2 割を合計して系・専科決定に向けて動いていく予定でいます。

今年度より応募前職場見学を複数実施という取り組みをしましたが、この成果は、今年度の卒業の離職率で判明すると思われます。おっしゃられるように企業と情報交換をしながら、進路に関する問題点を解決していこうと思います。

教育活動におけるカウンセリングマインド向上と自殺予防対策について SC(スクールカウンセラー) と連携しながら、予防への活動を行っている。

「相談だより」「保健だより」を通じて、メンタル・ヘルスについて「カラダとココロの健康づくり」について、生徒へ啓発を行い、学校全体として相談しやすい体制づくりを行っている。

8 月および 11 月に実施をしましたオープンスクールでは 1 回当たりの定員を減らし 2 部構成で行いました。

工科高校の現状は大変厳しいので、日頃からの情報発信および来てくれる人だけを対象にするだけではなく中学校への出前授業などの働きかけをいろいろな形（系・学年など）で学校全体で取り組む必要があると考えています。

Q. 生活指導部に対して質問ですが 新たな遅刻指導により減少傾向にあると記載されていますがポイント制のみで改善されたのでしょうか。1 回目の協議会にて色々な方法で接していくと提案されていたので何かあれば具体的にお願いします。

A. 今年から内容を改めて始めた遅刻指導ですが、遅刻が減少方向にある要因としては、ポイント制の導入よりも指導内容の変更によるものであると考えています。ポイント制というのは 8 : 20 ~ 8 : 30 を 1 ポイント、8 : 30 以降を 2 ポイントとし、8 ポイントになった翌日から早朝登校指導を開始するという、あくまでも指導の方法論です。

遅刻減少の要因と考えられる指導内容の変更を具体的に述べますと、昨年までは月に 3 回以上授業遅刻をしたら奉仕活動（主に清掃活動）をおこなっていましたが、この指導は生徒にとって遅刻に対するペナルティーにあたる指導です。これを生活指導部で討議し、ペナルティー的な要素よりも指導内容が直接的に遅刻が減少していくことにつながる指導を、ということで早朝登校指導に変更しました。

この指導により 8 : 10 登校を 3 日連続でおこなうことで生活習慣の改善が見られました。また、従来は月単位で指導を区切っていたものを 8 ポイントがたまった翌日から早朝登校指導を開始することで早期の生活習慣の改善につながったと考えられます。

その他ご意見

コロナ禍の中で、先生方はよく頑張っておられると思います。

④ その他

Q. 工場横の高い塀が撤去されたことで、旋盤の音が聞こえてくる。周辺住民からクレームが入っていませんか。

A. まだ、工事期間中でもあるためか、特に実習に関するクレームは届いておりません。

3 まとめ（校長）

全般を通して、過大な温かいご意見をいただきありがとうございました。

委員の皆様方のご意見にもあるように、今年度は新型コロナウイルスの感染拡大により、当初の計画とはだいぶ違った学校運営となっている部分もありますが、本校の背骨の部分でもある、「一人ひとりを大切にしたい」「社会規範を身に着けた産業人を育成する」部分においては、本校教職員の取り組みにおいて順調な経過を示しているように感じます。

今後、令和4年度に実施される新学習指導要領の主旨を踏まえた授業改善にも取り組みを行う必要があると思っています。その中で、第1回目の授業アンケートの結果は期待されたものではありませんでした。その中で、山田会長のご意見にもあったように「コロナ禍で思うように授業時間が確保できないことに起因するもの」の指摘は、少し安堵をさせていただけるとともに、12月に実施した、第2回目のアンケートでの結果は重いものであると考えています。

今年度もあと少しとなりましたが、残された期間でできる限りの生徒の育成を行ってまいりたいと思います。委員の皆様におかれましても、厳しい季節、状況ではありますが、ご自愛いただきますようお願い申し上げます。

次回の会議日程

| | |
|----|--------------|
| 日時 | 令和3年2月18日（木） |
| 会場 | 本校佐工会館1階 |